第三篇 満洲中部及西部方面の状況

第一章 第三十軍の状況

第一節 第三十軍全般の状況

第一 昭和二十年六月十五日軍司令官、師団長会同の際指示せられたる関東軍作戦計画（第三方面軍関係のみ）の要旨

一、敵情判断

1、近く予想せらるる米軍の日本本土上陸或は南朝鮮上陸に呼応し蘇軍は満洲に進攻を開始すべし。

2、進攻の時機は厳冬前とし早くも九月以降なるべし。

二、作戦方針

満蒙国境より連京線に到る縦長の地域により進入する蘇軍の戦力を消耗せしむると共に連京線（含む）以東に於て予め準備せる陣地を利用し敵を撃破す。

0467

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、作戰要領

1. 第四十四軍及第百八師團（第三方面軍直轄として錦熱地方の防衛に任しあり）は決戰を避けて敵の戰力消耗及前進遲滯に勉む。敵瀋陽東進するも其の後方に殘留し後方より敵を攻擊して其の戰力消耗に勉む。

2. 第三十軍は左記要領により陣地を利用し敵を擊破す。

左記（附図第一参照）

第一線（前進陣地）
連京線沿線主要都市

第二線（中間陣地）
特に確保すべき要點は新京及奉天市とす
イ 海龍、山城鎭、清原附近吉奉線西側高地の線
ロ 本溪湖、鳳凰城、安東附近安奉線沿線地區

第三線（主陣地帯）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

金川、柳河、興京、桓仁の線

3. 第三十軍と第四十四軍との作戦地境は連京線とし線上は第三十軍とす

4. 都市防禦

満洲国政府指導の下に国内主要都市を防禦據點化し軍民一體となり蘇軍の侵攻を縦長の地域に阻止す

四、關東軍作戦計畫に對する第三方面軍司令官後宮大將の意見

通化地區に後退して決戦をする關東軍作戦計畫には全く反對の意見にして、其の理由とするところは第三方面軍管區内の日本人居留民は現在約百十万を算し其の大部は連京線沿線地區に居住しあり。然るに通化地區に於ける居住施設は皆無といふも過言ならずして軍自体の築城、彈藥、糧秣の集積等も之より開始せんとする時居留民の爲の居住準備、糧秣の集積等は年内には不可能なり。又通化地區冬季の氣温は齊々哈爾と全く同じく之が越冬は居住施設なくしては不可

0469

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

能なり。即ち關東軍作戰計畫は百十万の居留民を放棄して作戰を續行せんとするものにして方面軍司令官としては斯の如き方策は採り得ず。

從つて方面軍は能く居留民と生死を共し連京線沿線地區を最後の決戰場とするを要すと謂ふに在り。

後宮方面軍司令官は右理由による連京線沿線地區決戰に就きては牢、固たる決心を有したるが如く、八月八日（開戰前日）第三十軍司令官飯田祥二郎中將の延吉赴任に際し「私は奉天を死守します貴方は新京を死守して下さい」と染々と語りたり。

第二　第三十軍の作戰準備

一、第三十軍司令部の編成

第三十軍司令部は關東軍の作戰計畫上掲記せられありたる人事上の關係により其の編成遲れ、當初の作戰準備は主として第三方面軍司令部に於て擔任せり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七月三十一日第三十軍司令部は間島省延吉に於て編成せらる（編成擔任官第三軍司令官中將村上啓作）。

軍司令官中將飯田祥二郎、軍參謀長少將加藤道雄にして、高級參謀大佐吉川猛は八月八日（開戰の前日）延吉に著任せり。

尚作戰主任參謀中佐桑正彦は病氣の爲六月以來奉天に於て臥床、後方主任參謀少佐廣瀬侑信は海拉爾にありて著任しあらず、情報主任參謀は未發令（十日關東軍參謀少佐山岸武第三十軍參謀として著任す）の狀況なりき。

二、陣地の構築

1、開戰迄に陣地偵察を實施せる地區左の如し。

左記

第一線（前進陣地帶）　奉天及四平附近

第二線（中間陣地帶）　撫順、本溪湖及安東附近

第三線（主陣地帶）　金川及柳河附近

0471

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2. 開戦迄に工事を開始せるものは安東のみにして其の他は工事に任ずる兵團が編成未完か、或は支那方面より未着のため工事を開始しあらず。

3. 築城材料は關東軍建設團に於て準備中なりしも開戦迄に豫定陣地に到着しあらず。

4. 勞務者の一部は已に徴用しありしも工事基幹部隊未着の爲豫定陣地には配備しあらず。

5. 支那方面より轉進せる部隊の態勢落着きたると一部の兵團新設せられしを以て、八月八日を第一日とし約一週間の豫定を以て奉天に於て陣地の編成工事の要領につき方面軍の集合教育行はる（但し九日開戦と同時に解散す）。

6. 都市防禦

都市防禦に關しては昭和二十年初頭より關東軍に於て計畫しありしも、實際に現地の市、街長に傳達せられしは奉天省に於て八月

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日頃なり。然れども未だ滿洲國官民の空氣は軍の意圖するところと相距ること遠きものありて、市、街長の態度は非協力的なりき。

三、第三十軍作戰準備は十一月上旬を概成目標とせり。

右は最大限の努力目標にして實際には困難なりき。

四、七月末下令されたる第三十軍戰鬪序列次の如し

軍司令官　中將　飯田祥二郎

第三十軍司令部

第三十九師團

第百二十五師團

第百三十八師團

第百四十八師團

獨立野戰重砲兵第二十一大隊

獨立臼砲第二十七大隊

重砲兵第一聯隊

0473

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

重砲兵第十九聯隊
獨立重砲兵第七大隊
第二工兵隊司令部
獨立工兵第四十大隊
特設警備大隊　二
特設警備中隊　一
自動車大隊　一
輜重兵大隊　一
道路隊　一

第三　開戰時に於ける第三十軍の狀況

、第三十軍司令部

延吉に在り。蘇軍の侵攻開始に伴ひ九日軍司令官中將飯田祥二郎は軍參謀長及高級參謀と共に飛行機により梅河口に前進し、高級參謀は更に方面軍司令部に連絡のため奉天に到れり。

0474

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

司令部は九日夕延吉出發鐵道により梅河口に前進を開始す。作戰主任參謀は奉天方面軍司令部に在り。

二、第三十九師團

師團司令部は海龍に在り。

師團主力は海龍、東豐、西安の地區に集結しあり。

中支より轉進し來れる精鋭兵團なるも輸送圓滑を欠き師團砲兵到着しあらず。

三、第百二十五師團

師團司令部は通化に在り。

師團主力は通化及柳河の地區に集結しあり。開戰と同時に關東軍直轄となりたるも第三十軍司令官の之を知りしは十一日なり。

四、第百三十八師團

師團司令部は撫順に在り。主力は撫順、南雜木の地區にあり。尚編成未完にして兵力約二、〇〇〇なり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

開戦と同時に方面軍直轄となる。

五、第百四十八師團

八月三日編成を完結す。

師團司令部及師團主力は新京附近に集結しあり。歩兵聯隊は殆と小銃を装備しあらす野砲兵聯隊は十榴一門三八野砲一門のみなり。

六、獨立野戰重砲兵第二十一大隊

獨立臼砲第二十七大隊

重砲兵第一聯隊

重砲兵第十九聯隊

獨立重砲兵第七大隊

以上は通化地區に在り。

七、第二工兵隊司令部

獨立工兵第四十大隊

以上は中支より奉天到着（七月中旬）と同時に方面軍直轄となり方

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍軍全般の築城施設の指導に任しあり。

八、特設警備大隊　三

特設警備中隊　二

自動車大隊　一

輜重兵大隊　一

道路隊　一

以上の部隊は終戰に至る迄之を掌握するを得さりき。

第四　作戰經過

一、梅河口に於ける第三十軍司令部

1、十日軍戰鬪司令所を梅河口驛前梅の屋ホテルに開設す。

2、十日朝高級參謀及作戰主任參謀奉天第三方面軍司令部出發に方り方面軍より受けたる命令の要旨次の如し。

イ第三方面軍正面敵機甲部隊は數縱隊となり國境を突破して東進中にして早ければ十三日頃連京線沿地區に進出すへし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東部國境に於ては九日已に國境陣地を突破せられ敵は綏陽、琿春に進出す一部の敵機甲部隊は牡丹江に向ひ突進中其他全面的に敵は國境を突破侵入せるも通信杜絶しあるため狀況不明なり

ロ方面軍は既定計畫に基き作戰行動を開始す

ハ第三十軍は先つ新京四平地區を確保し進攻する敵を擊破すへし

3. 右に基き十日夕梅河口に集合せる各兵團命令を下達す（後退者に対した軍旨の命令か）

左　記

イ軍は新京及四平を確保し侵攻する敵を擊破せんとす

ロ第百四十八師團は新京特別市を確保し侵攻する敵を擊破すへし

ハ第三十九師團は四平に前進し四平東側高地帶を確保し侵攻する敵を擊破すへし

ニ第百二十五師團は梅河口周邊地區に前進し爾後の行動を準備すへし

（以下省略す）

共軍は軍通信機關を有せず當時公衆電話も通せざりしを以て十一日夕迄敵情も方面軍の企圖も判明せず止むを得ず十一日朝情報主任參謀少佐山岸武を通化關東軍司令部へ參謀部付中尉大西富二を奉天方面軍司令部に連絡のため派遣せり。

5.十一日夜奉天方面軍司令部より公衆電話により開戰以來の方面軍命令を取纒め下達せられしも混線甚しく意志通せず、唯第百二十五師團が關東軍直轄となりたることと及第三十軍司令部は速かに新京に進出すべきこととのみ諒解す。

6.右により第三十軍は全力を新京に集結し決戰をなすべき案に變更せられたるものと判斷し、在四平第三十九師團に新京に向ひ轉進を命す。

7.十二日早朝軍司令官軍參謀長、高級參謀作戰主任參謀は東豐飛行場に前進し折から陸路輸送中の第二航空軍司令部の飛行機に便乘し新京に前進す。

0479

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

8. 常時軍司令部主力は吉林附近被爆による列車遅延の爲末た機河口に到着しあらず。

三、新京に於ける第三十軍司令部

1. 十二日晝新京飛行場に到着す。折から通化に後退すへき關東軍總司令官山田大將飛行場に到着し、新京附近の關東軍直轄部隊を悉皆指揮下に入らしめられ新京特別市の防衛を命せらる。

2. 十二日晝第三十軍戰闘司令所を關東軍總司令部廳舎に開設し左記部隊を掌握す

左　記

イ 獨立混成第百三十三旅團

ロ 戰車第三十五聯隊

ハ 新京高射砲隊

ニ 高射砲第二十六聯隊

ホ 禁衛隊

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

滿洲國軍官學校生徒隊

3. 新京軍戰鬪司令所に於て第三方面軍司令部との連絡成り、左記要旨の命令を受く

左　記

イ 方面軍は連京線沿線地區に於て敵を撃破す

ロ 第三十軍は新京及四平を確保し來攻する敵を撃破すへし

ハ 新に第百七師團（五叉溝）及第百十七師團（洮南）を軍の指揮下に入らしめ第四十四軍との作戰地境を左の如く變更す

舊　連京線（線上は第三十軍）

新　昌圖－鄭家屯－魯北（線上は第四十四軍）

4. 右により爲遼第三十九師團に對し新京に向ふ輸送を中止せしめ再度四平東側高地を占領せしむ。然れども歩兵第二百三十一聯隊は已に新京に到着しありしを以て軍豫備隊として新京に控置す。

5. 第百七師團は五叉溝既設陣地に於て優勢なる敵の包圍を受けて突

0481

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

戰中なるものの如く、又第百十七師團は洮南附近を撤退し鐵道及徒歩行軍により新京に向ひ後退中なり。

然れとも軍は通信機關を有せざりしを以て之等師團とは終戰後始めて連絡するを得たり。

6. 十三日朝新京特別市防禦に關する左記要旨の軍命令を下達す。

左　記

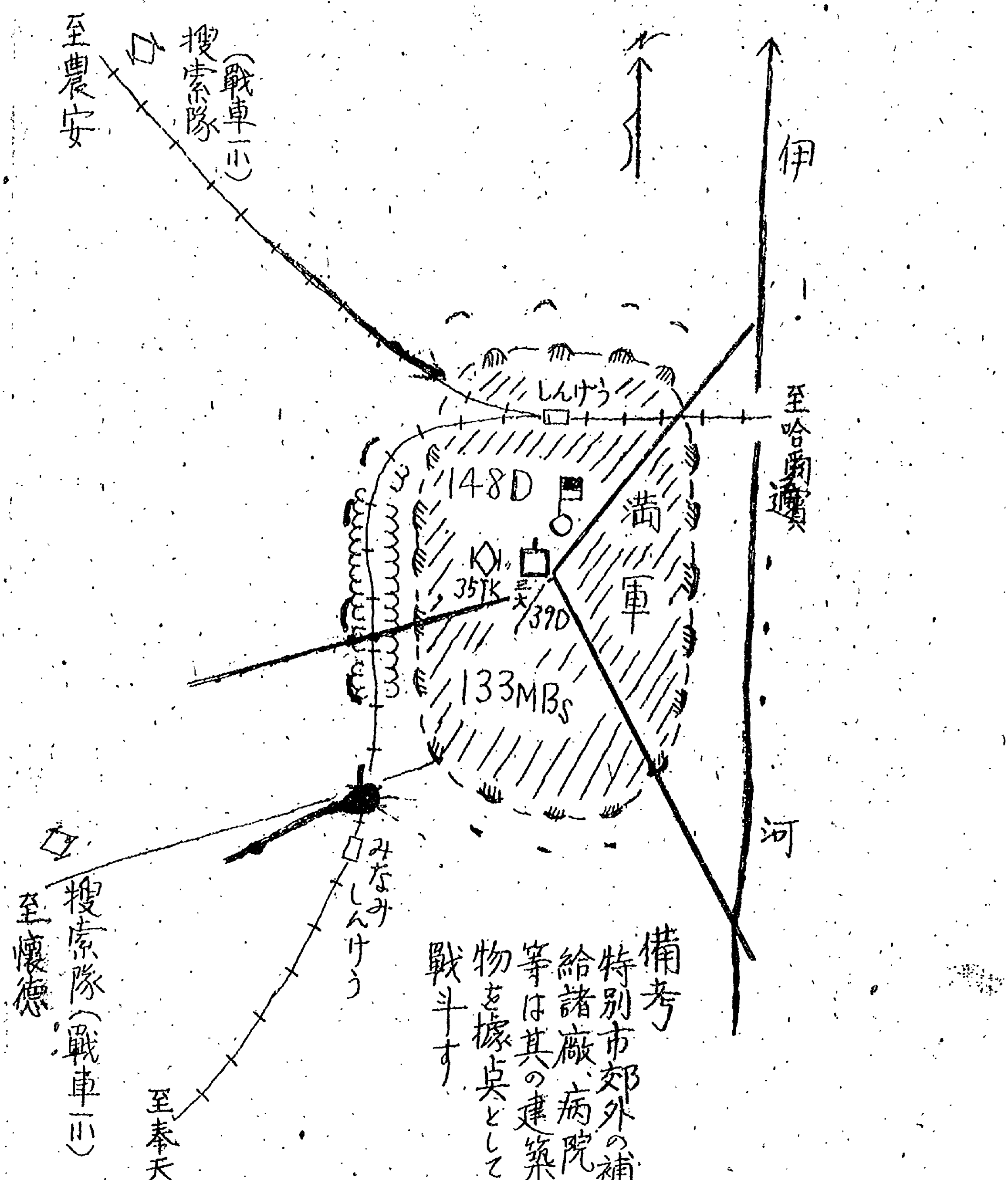
イ 敵の前進速度は逐次低調となり新京特別市正面に現出するは早くも十五日頃なるへし

ロ 軍は主力を以て新京特別市を確保し來攻する敵を擊破せんとす

ハ 部署の概要要圖の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

新京防禦配備要圖（於八月十三日）



0483

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

7.十三日夕より各部隊は逐次陣地に就き工事を開始す。

8.十四日西正面の敵機甲部隊は燃料の補給圓滑を欠き加ふるに雨天のため難行中にして、新京特別市正面に現出するは十五日以降となるへき情報を受く。

9.十四日伊通河正面にありし滿洲國軍背叛し新京市内各所に於て小戰惹起す。

三、滿洲國軍の背叛と終戰

1.十三日新京防禦に關する軍命令に基き禁衛團地區の配備變更を滿洲國軍に對する武裝解除と誤斷せるに端を發し十四日以來新京城内の日滿軍衝突するに到れり。

當初は禁衛團と第百四十八師團の第一線との衝突なりしも、軍官學校内日滿系軍官との衝突となり十五日は城内を中心とする地區と其の他の地區とは劃然と敵味方として對峙するに到り十九日頃迄新京市内は銃聲の絶ゆることなく騒然たり。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

2 十五日終戦と同時に満系市民の掠奪行為開始され補給諸廠、兵営、官舎地帯は彼等の執拗なる襲撃を受くるに到れり。

四 十四日十四時頃奉天方面軍司令部末弘参謀より電話により「大命によつて愈々停戦となつた細部は一任するから新京の方は宜敷く頼んだぞ」との連絡あり。當日朝已に関東軍第二課野原参謀より日本政府が降伏受諾の放送をなしあることを秘かに教へられありたるを以て直ちに新京の各部隊に停戦命令を下達せり。

十四日夕刻通化より関東軍総司令官山田大将以下総司令部幕僚は新京に歸還し、関東軍に於ては停戦命令を發令しあらざるにより即刻作戦行動再開を命ぜられ止むを得ず作戦行動再開の命令を下達せるも各部隊の統制を回復することと困難の裡に十五日終戦の大詔を迎ふるに至れり。

五 公主嶺に轉進

1 八月十五日終戦となりたる當時約三萬人の在新京兵力の武装解除

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を如何にするかを討議したる結果蘇軍との摩擦を最小限にするため主要兵器は自主的に新京南側郊外孟家屯兵器廠に集積主力を新京より公主嶺に轉進集結せしむるに決し第百四十八師團主力を新京に殘置し其の他の主力は十八日朝より公主嶺に轉進を開始せり。

2 十九日夜敵機甲部隊の先頭連京線上范家屯（新京南二十粁）に達し當時公主嶺に向ひ轉進中の部隊と交戰するに至り第三十九師團歩兵第二三一聯隊の主力は武装解除を受け犠牲に拉致さる

3 第三十軍司令部は十九日夜公主嶺に到着す

六、武装解除

1 八月十九日蘇軍使（ザバイカル方面軍作戰課長大佐某以下數名）は輸送機に搭乘し約十五機の戰鬪機に掩護せられ新京飛行場に到着す。

2 關東軍總司令部代表少將松村知勝、新京駐屯日本軍代表中佐桑正彥は飛行場にて軍使と會見す。

0486

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

其の結果關東軍總司令部の武裝解除は暫時保留され在新京部隊は即刻新京南側郊外に集結して武裝解除を命せらる。

3. 新京駐屯地司令官第百四十八師團長末光中將は在新京部隊を新京特別市南側建國大學、大同學院、工業大學、高等警察學校、關東軍通信隊兵舍に集結せしめ、武器彈藥を孟家屯兵器廠にて蘇軍側に引き渡したり。

孟家屯兵器廠に於て蘇軍に引き渡したる主要兵器は野砲二門、十榴一門、高射砲十數門、戰車五輛、小銃、銃劍、步兵砲、機關銃相當數なり。

4. 公主嶺、四平所在部隊は二十日武裝解除を受けたり。

七 第百十七師團の狀況

開戰と同時に鎭東、白城子、洮南、開通等四洮線沿線の主要部落を據點として敵の來攻に備へありしが十一日「新京に後退して第三十軍司令官の指揮下に入るへき」命令を受け白城子、洮南等は火を放

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

つて行軍及鐵道により轉進を開始す。
師團は大賚及其西方地區に於て終戰を知り師團長は十六日先行して新京に到り兵力を公主嶺に集結すへく處置せるも蘇軍の到着と共に一部の兵力は移動を停止せられ新京及公主嶺の兩地に於て武裝を解除せられたり。

八、第百七師團の狀況

（註）終戰後判明せる狀況なり。

師團は八月十日第四十四軍より「新京に到り第三十軍司令官の指揮下に入るへき」命令を受け、數梯團となり轉進を開始し白阿線に沿ふ地區を後退中數次に亘り蘇軍機甲部隊の攻擊を受け又鮮人兵の逃亡續出の爲師團は兵力頓に減少して數團に分散して戰鬪しつつ行動し、八月二十七日札賚特旗晉德爾（王爺廟北々東百粁）に達し該地に於て蘇軍に依り武裝解除せられたり。

師團は十一日以後無線機故障の爲上級司令部との連絡を絶ちありし

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

爲終戰後關東軍及第三十軍に於ては幕僚を飛行機に依り派遣し漸く師團の位置判明し之と連絡するを得たり。

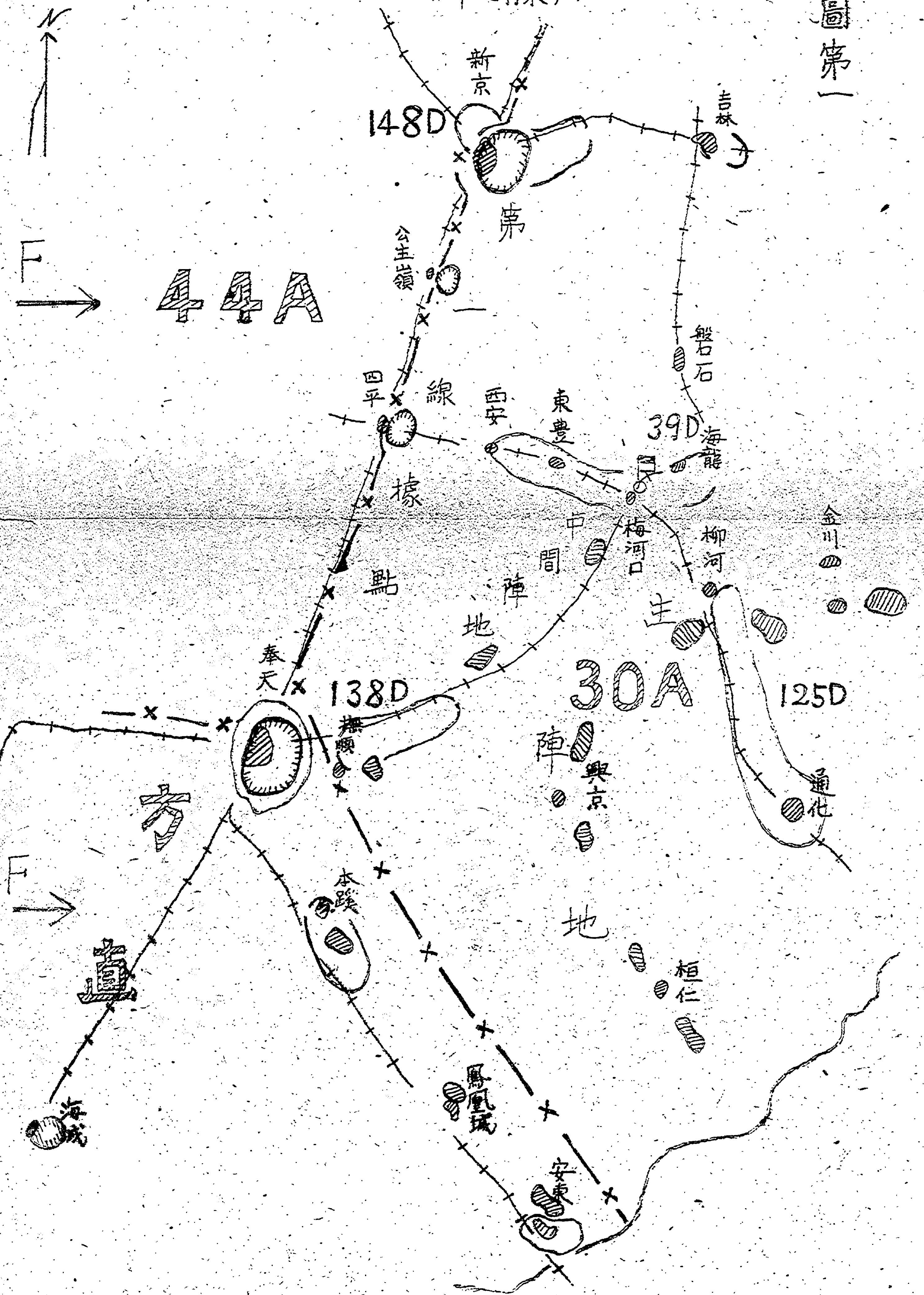
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0490

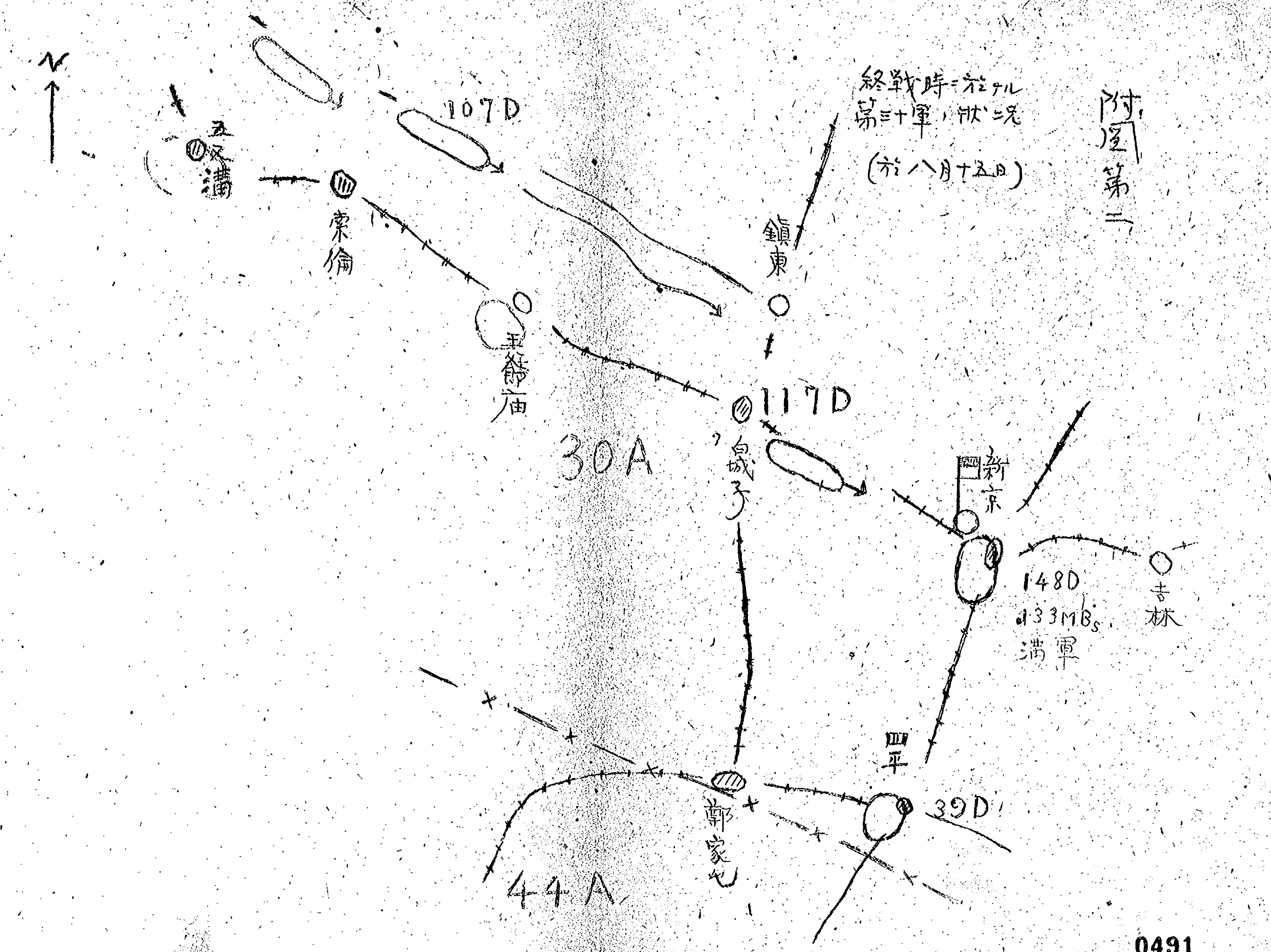
附圖第一

第三十軍陣地配置計畫要圖

（昭和二十年七月末）



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



0491

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp